

令和2年度

ICTを活用した集落ぐるみの有害鳥獣捕獲モデル
事業集落捕獲活動支援業務

集落別捕獲指導記録

株式会社野生鳥獣対策連携センター

わなID	No. 1
地区名	糸井乙地区（囲いわな）

【わな設置前の誘引状況と捕獲見込みについて】

対象獣種	餌付け開始日	誘引エサ	誘引状況	捕獲可能性
ニホンジカ	7月6日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■餌付け開始直後に誘引成功 ■3～4頭の寄り付きを確認 (オス1頭、幼獣を含む) ■毎日、7～8割のエサを完食 	高
イノシシ			<ul style="list-style-type: none"> ■7月9日に1度、幼獣2頭を連れたメス成獣の寄り付きを確認 	低

【わな設置後の誘引状況と捕獲状況について】（中間結果）

2020.8.13～9.28（合計47日間の撮影データ分析結果による）

対象獣種	わな設置日	誘引エサ	誘引・捕獲状況	捕獲の継続可能性
ニホンジカ	8月13日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■8月19日以降、オス成獣1頭を含む最多4頭の誘引に成功 ■8月28日、わな内への侵入を確認 ■9月2日、捕獲を実行（幼獣1頭※） ■9月3日、センサーの設置高を調整 ■9月7日、再びわな外に給餌 ■9月11日、わな前までの再誘引に成功 ■9月16日、センサー誤作動により扉閉鎖 ■9月17日、WM柵による補強を実施 	高
イノシシ			<ul style="list-style-type: none"> ■翌日以降、散発的に計8回、単独の亜成獣個体の寄り付きを確認 	低

※捕獲補助装置の設定は3頭。

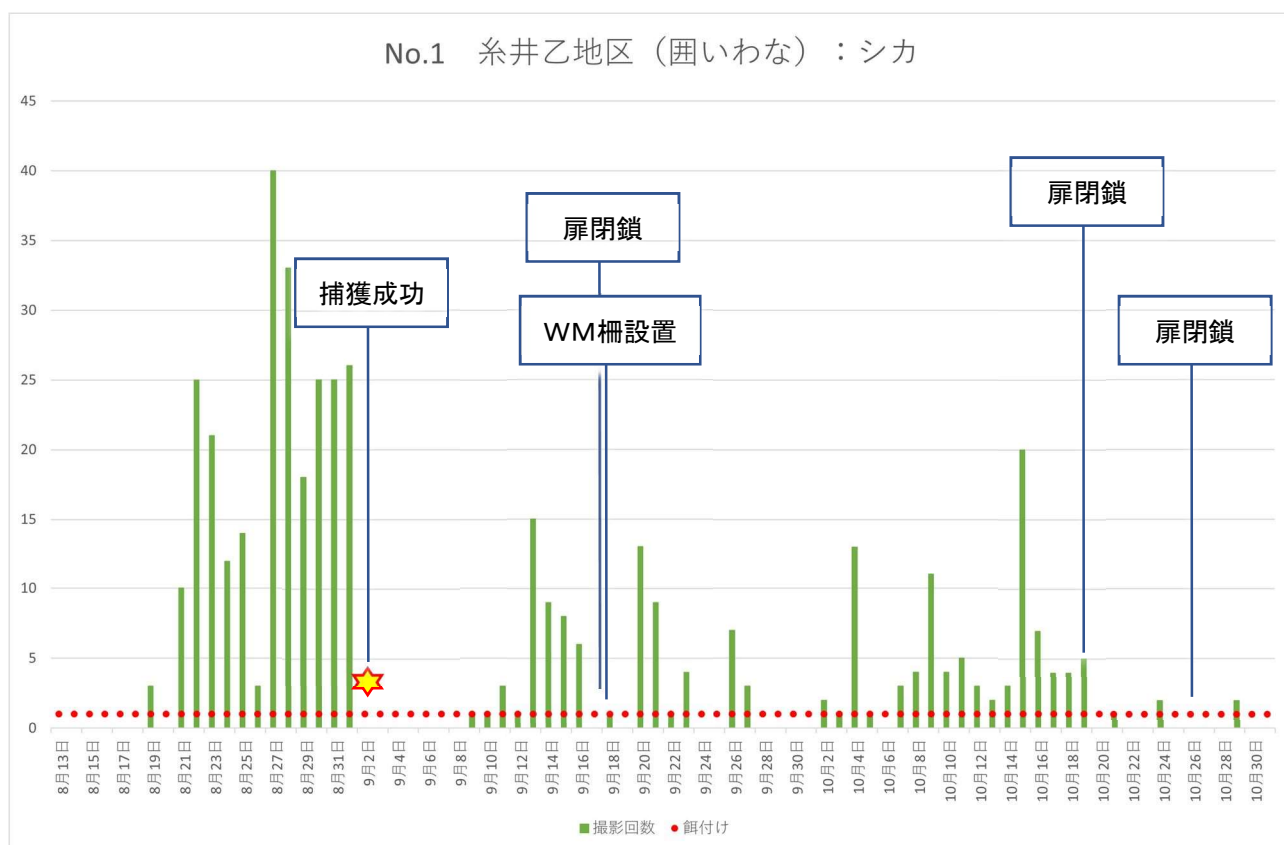
【9月29日までの結果の考察と今後のアドバイス】

- 毎日、キチンと給餌が行われており、シカの誘引も順調であっただけに、装置の誤カウントにより捕獲が幼獣1頭にとどまってしまったのは残念である。
- 一方、捕獲前までは3頭程度のシカがわな内で採餌するようになっていたこと、及び捕獲後約1週間まで再誘引にも成功していることから、再捕獲の可能性は高いと考える。
- 現在、装置の誤カウント防止のために、入り口にWM柵を設置しているが、シカの場合、扉周辺の異物に対しては強い警戒感を示すことが多いため、今後、誘引がうまく進まない場合は、WM柵の撤去を検討することが望ましい（扉閉鎖及びWM柵設置後にシカの寄り付き頻度が低下していることに注目）。

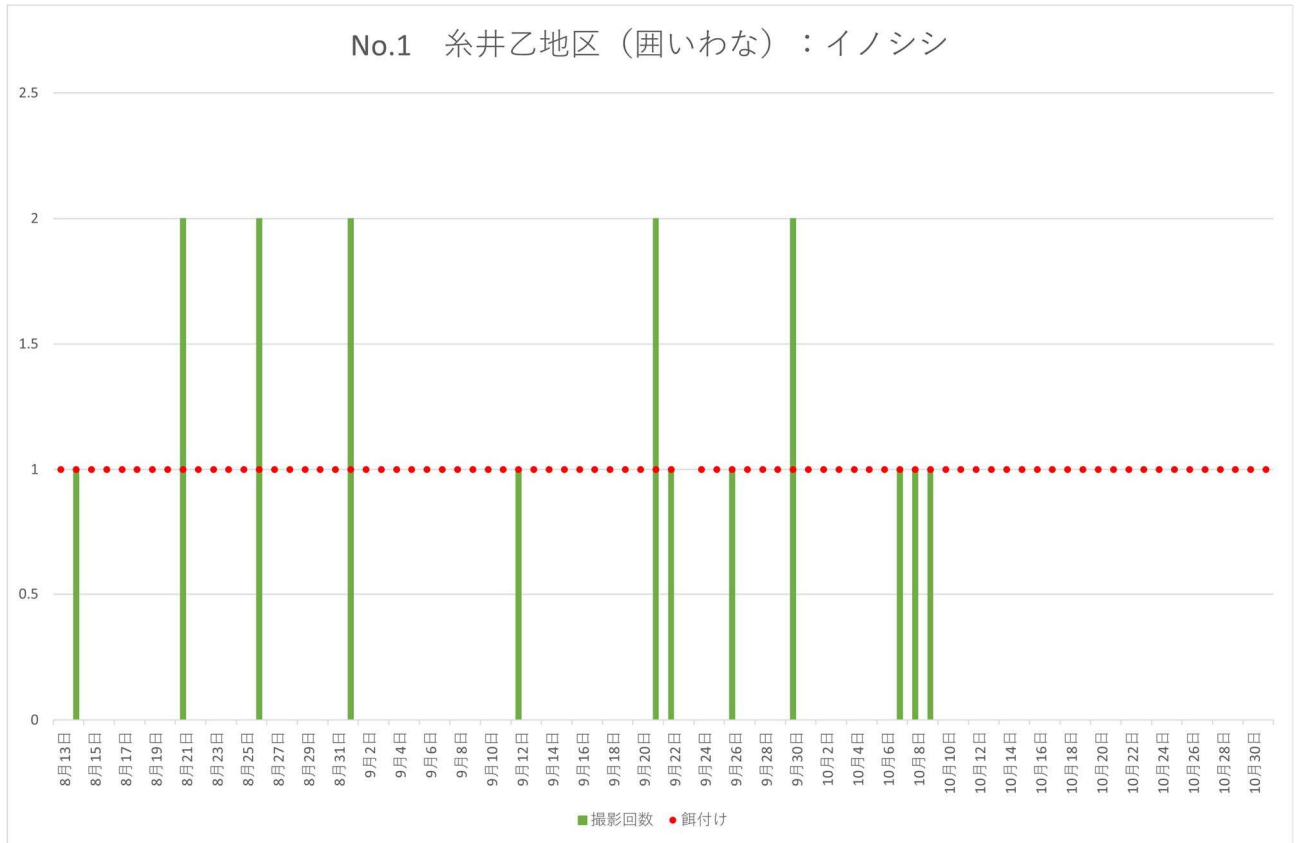
【捕獲終了（10月31日）までの結果と総評】

- WM 柵撤去後、10月4日頃から再度シカ3頭程度の寄り付きとわな内への進入が見られたが、センサーの動作不良、中型動物による扉の誤作動などが続き、再びシカの接近が低下。最後まで捕獲には至らなかった。
- 毎日欠かさず餌付けができていたこと、場所の選定もよく、狙い通りにシカの群れを誘引できていたことは高く評価できる。結果的に捕獲実績は、初期に捕獲した幼獣1頭にとどまったが、期間中、何度も群れ捕獲の機会を得ており、捕獲のプロセス自体は成功したと言える。
- シカの出没頻度や群れの大きさから、当地は囲いわなによる群れ捕獲に適した環境であると考えられるため、次年度は一層の捕獲促進が期待される。
- イノシシについては、期間中、何度かわな周辺に出没したものの、わな内に進入する様子は見られず、最後までまとまった捕獲機会は得られなかった。
- 現地指導等により、センサーの誤カウントを防ぐために設置した WM 柵がシカの誘引を阻害する可能性があることや、シカやイノシシの出入りを正確にカウントするためのセンサーの設置高（40～50 cm程度）を指導できたことで、不具合を改善した捕獲装置により次年度以降の捕獲活動が、よりスムーズに展開するものと期待したい。

【シカの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【イノシシの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【わなの設置状況と捕獲個体】



わな設置状況



シカ捕獲の様子（9月2日）

わなID	No. 2
地区名	糸井乙地区（箱わな）

【わな設置前の誘引状況と捕獲見込みについて】

対象獣種	餌付け開始日	誘引エサ	誘引状況	捕獲可能性
イノシシ	7月6日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■餌付け開始直後に誘引成功 ■8～9頭の寄り付きを確認 (メス成獣2頭、幼獣6頭、単独亜成獣1頭) ■毎日、エサを完食 ■8頭の親子は数日に一回程度の来訪 <よりわな設置に適した候補地を提案> ■7月19日にエサを設置 ■7月24日以降、前出の親子と同じと思われるグループの誘引を確認 	高
ニホンジカ			<ul style="list-style-type: none"> ■7月25日に1度、幼獣1頭を連れたメス成獣が柵の外側にいるのを確認 	低

【わな設置後の誘引状況と捕獲状況について】（中間結果）

2020.8.13～9.28（合計47日間の撮影データ分析結果による）

対象獣種	わな設置日	誘引エサ	誘引・捕獲状況	捕獲の継続可能性
イノシシ	8月13日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■8月13日以降、亜成獣1頭の誘引に成功 ■親子（最多3頭）の誘引は、2回のみ ■8月16日以降、イノシシの写り込みが無くなったため、わな外への餌付けを実施 ■8月25日以降、連日誘引を確認するも、わな内には入る様子なし ■9月4日、わな外のエサを整理 ■その後、約3週間でイノシシの寄り付きが確認されたのは3回のみ 	低
ニホンジカ			<ul style="list-style-type: none"> ■8月15日以降、散発的に計17回、単独の亜成獣個体の寄り付きを確認 ■8月15日、9月26日には、わな内で採餌する様子を確認 	中

【9月29日までの結果の考察と今後のアドバイス】

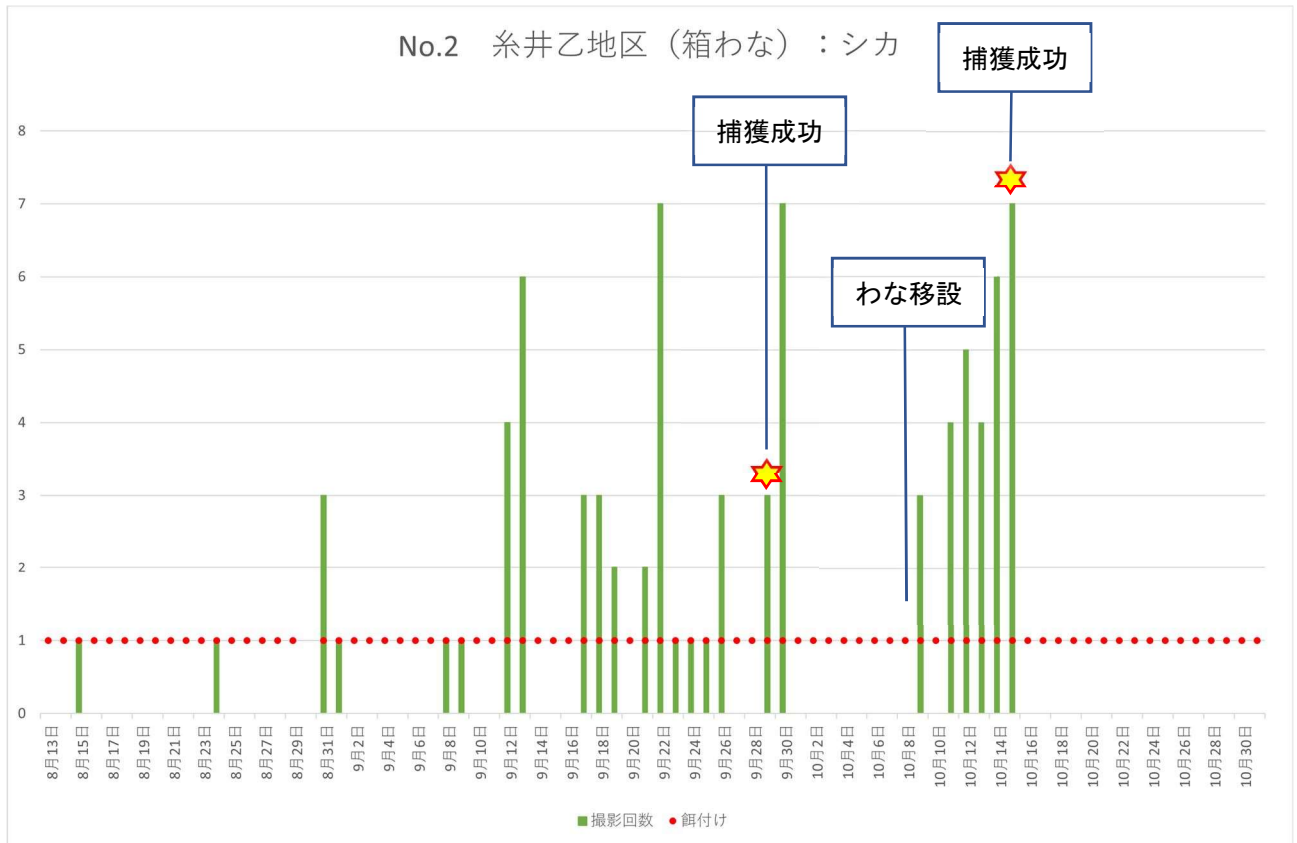
- 毎日、キッチンと給餌が行われているものの、イノシシ、シカ共に撮影回数が伸びず、寄り付きが安定しない。

- 特に、直近3週間のイノシシの誘引状況は悪く、捕獲可能性は、極めて低くなっていると判断せざるを得ない。
- わな設置前後のイノシシの反応を見る限り、場所の選定や獲物の警戒心の強さが原因で誘引がうまく行っていないというより、季節の移り変わり等の外的要因によってイノシシの行動や誘引エサへの魅力が低下した可能性が高いと推察される。
- 一方、シカについては、散発的な寄り付きで撮影回数は多くないものの、接近時には抵抗なくわな内に進入して採餌していることから、来訪のタイミングで捕獲待機状態であれば、捕獲を成功させられる可能性は高い。
- 以上の結果から、ひとまず当該地点では次にわな内に進入したシカ及びイノシシを捕獲することを目標に据え、わなセンサーの感知可能範囲に注意しつつ、捕獲待機状態にシフトすることをおススメする。
- これと並行して、次の検討と対策を提案する。
 - ・イノシシの行動を変化させた外的要因の調査
 - 柵の破損個所の修理、近隣農地における水稻等への被害発生状況、わな地点以外での餌付け行為、近隣地区での捕獲等、思い当たることはないか？
 - ・わな地点以外の場所（当初の候補地を含む）での餌付けの再開
 - ここで誘引できた場合は、わな設置場所の選定に問題があった可能性が高い
 - ・次のわな設置候補地への移設

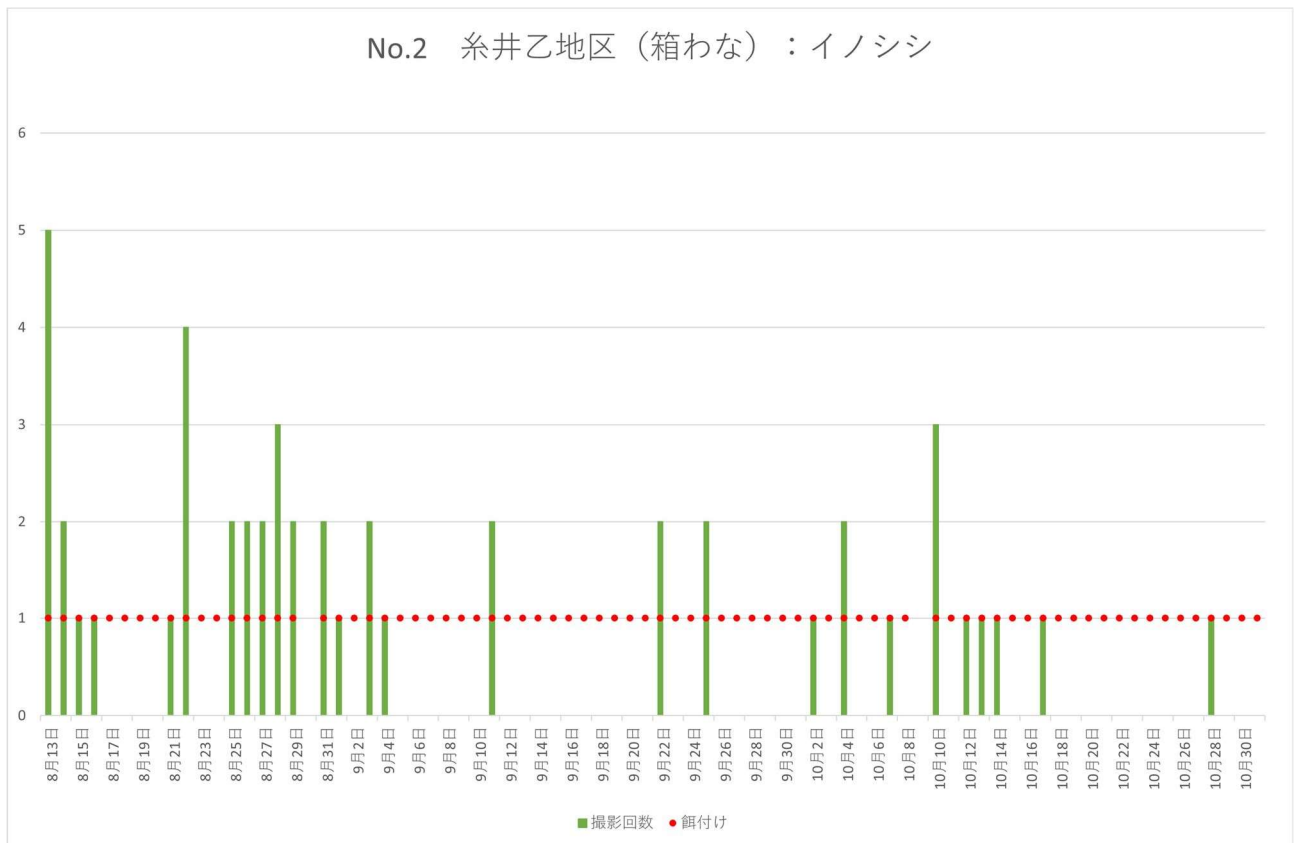
【捕獲終了（10月31日）までの結果と総評】

- 現地指導後、わなを捕獲待機状態にしたところ、当日中にシカ成獣1頭の捕獲に成功した。
- 捕獲後、すぐに大きなオスのシカ成獣1頭がわな内のエサを採食する姿が写ったため、さらに1週間程度、同じ場所で捕獲を試み、再進入がなければ次の候補地にわなを移設することを提案した（結果、さらなる寄り付きは見られなかったため、10月9日にわなを移設）。
- わな移設後、数日でイノシシ親子とシカの接近が確認されたため、捕獲待機状態にしたところ、10月15日には大きなオスのシカ成獣1頭の捕獲に成功した。
- 毎日欠かさず餌付けができていたこと、結果的にシカ2頭の捕獲に成功したことは評価できる。特に、捕獲期間終盤にわなの移設を決断したことの意義は大きく、わな位置の選定が捕獲効率に大きく影響を及ぼす要因であることを学習いただけた。
- 当初選定したわなの設置場所について、序盤はイノシシの親子を効果的に誘引できていたにもかかわらず、途中から寄り付きが極端に低下した原因としては、水稻の発育状態が影響していると推察された。当地では水稻が乳熟期に入る8月末頃より、イノシシによる食害や掘り起こし害が深刻化するため、わな内のエサに対する興味が薄れ、捕獲効率が低下したものと考えられた。
- 同様の傾向は、他の地域で実施中のわな（特に君田町石原地区 No.5 の箱わな）でも観察されたことから、次年度以降は、捕獲効率が低下する8月末までに捕獲を実行できるよう、早い時期に誘引を開始することが推奨される。

【シカの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【イノシシの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【わなの設置状況と捕獲個体】



わな設置状況①



わな設置状況②



シカ捕獲の様子 (9月29日)



シカ捕獲の様子 (10月15日)

わなID	No. 3
地区名	青河下地区空き地（箱わな）

【わな設置前の誘引状況と捕獲見込みについて】

対象獣種	餌付け開始日	誘引エサ	誘引状況	捕獲可能性
ニホンジカ	7月6日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■餌付け開始直後に誘引成功 ■オス成獣を中心に4～5頭の寄り付きを確認（一部母子の来訪もを確認） ■毎日、エサを完食 	中

【わな設置後の誘引状況と捕獲状況について】

2020.8.13～9.28（合計47日間の撮影データ分析結果による）

対象獣種	わな設置日	誘引エサ	誘引・捕獲状況	捕獲の継続可能性
イノシシ	8月13日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■8月24日以降、最多で2頭のイノシシがわなに接近、わな前で採食するようになった ■8月28日、わな内への進入を確認 ■8月29日、捕獲を実行（亜成獣1頭） ■9月4日、再びイノシシ1頭がわな前に接近し、採食行動をとった ■9月8日以降、イノシシ1頭が、毎日訪れ、採食行動をとるようになる ■9月12日、捕獲を実行（亜成獣1頭） ■9月16日、イノシシ1頭がわな前に姿を現すも、誘引エサは食わず 	低

※この時点では、シカはほとんど誘引されていなかったため、分析は省略した。

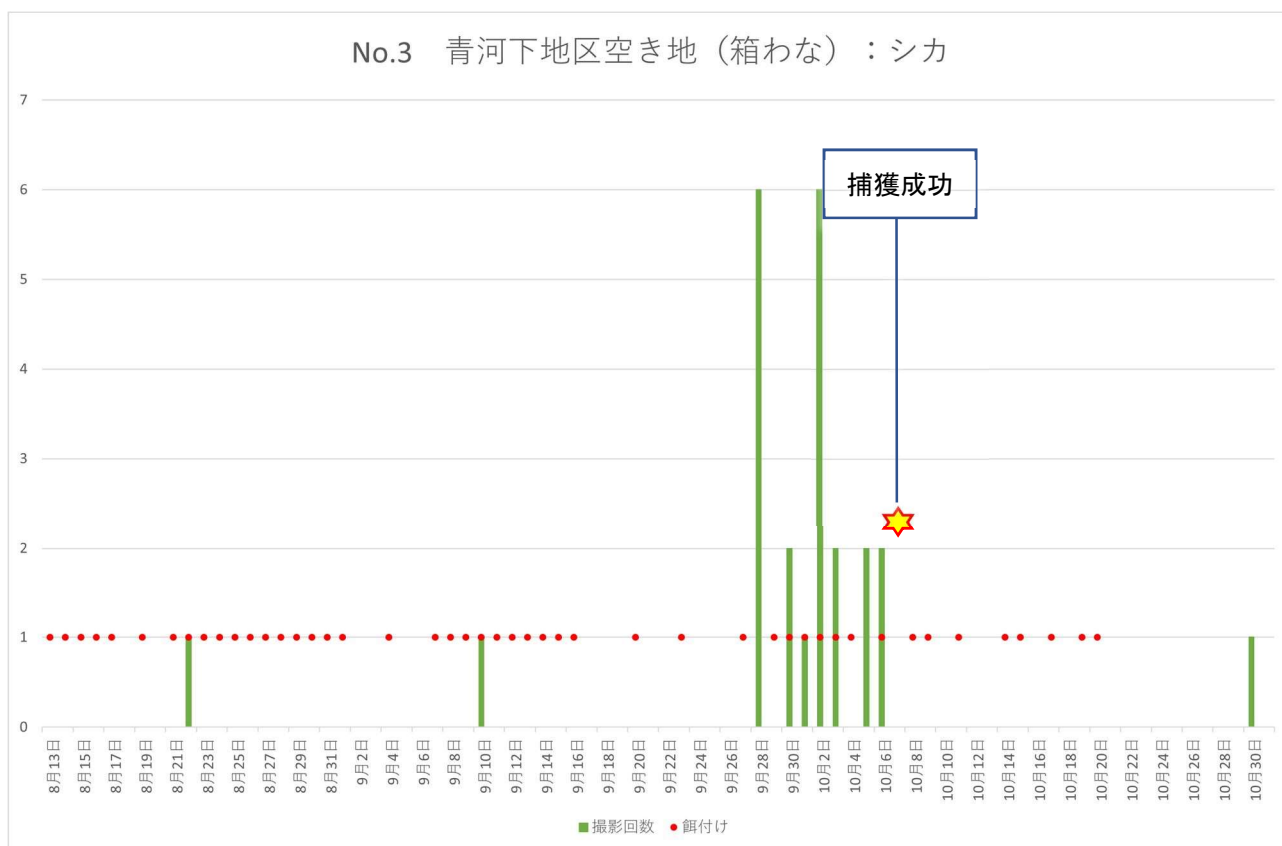
【9月29日までの結果の考察と今後のアドバイス】

- 当初、捕獲予定であったシカについては、警戒心の高いオス成獣の群れが主体であったことから、わな設置後の誘引状況は芳しくなく、センサーカメラへの写り込みも少ないことから、捕獲可能性は低いと判断された。
- 一方、わな設置前には撮影がなかったイノシシの誘引が進んだことで、短期間（2週間）に2度の捕獲に成功した。
- 2回目の捕獲完了後は、ほとんどシカやイノシシの写り込みは確認されておらず（約2週間でイノシシ1頭が1回のみ確認）、同一箇所での再誘引には、相応の時間を要すると判断された。
- 以上の結果から、次の候補地へのわな移設を検討すべく、複数の候補地において事前餌付けを開始することをおススメする（その間に再誘引できた場合は、要検討）。
- オスジカについては、山腹の斜面にてくくりわなによる捕獲を試みることを提案する。

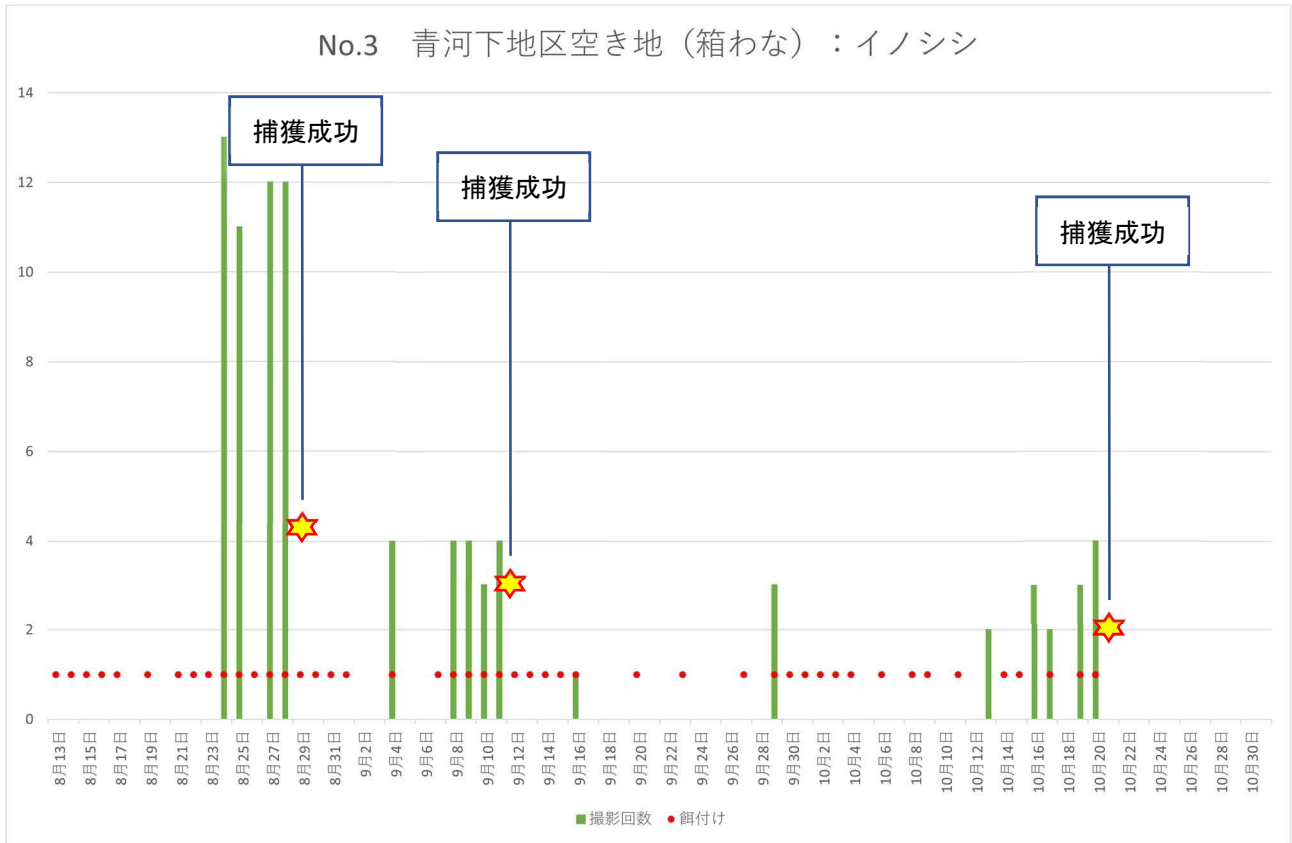
【捕獲終了（10月31日）までの結果と総評】

- 現地指導後、再びシカやイノシシがわなに寄り付き始めたため、わなは移設せず誘引を継続したところ、10月7日にシカ亜成獣1頭の捕獲に成功。続いて10月21日にはイノシシ成獣1頭の捕獲にも成功した。
- 捕獲成功後の餌付け作業に一時的な欠損はあるものの、全体としては効率的に誘引、捕獲に成功しており、事業対象地のうち最も大きな捕獲実績を上げることができた点は高く評価できる。特に、継続的に餌付けを開始すると、比較的早い段階でイノシシやシカがわなに寄り付いていたことから、捕獲を継続することで、さらなる実績を上げることができると判断された。
- 捕獲地点は、山際の開けた空き地であり、住宅地からも一定の距離を保つことができること、山からの進入ルートもはっきりしており、わなの設置場所選定も容易であることから、継続的にわな捕獲を進める上では適した環境であると言える。一方で、出没するシカやイノシシは単独行動か、2頭程度の小さな群れで行動している個体がほとんどであり、大きな群れはほとんど撮影されなかったことから、使用するわなは箱わなかくくりわなが適していると考えられた。

【シカの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【イノシシの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【わなの設置状況と捕獲個体】



わな設置状況



シカ捕獲の様子（10月7日）



イノシシ捕獲の様子 (8月29日)



イノシシ捕獲の様子 (9月12日)



イノシシ捕獲の様子 (10月21日)

わなID	No. 4
地区名	青河下地区高架下（箱わな）

【わな設置前の誘引状況と捕獲見込みについて】

対象獣種	餌付け開始日	誘引エサ	誘引状況	捕獲可能性
ニホンジカ			<ul style="list-style-type: none"> ■餌付け開始直後に誘引成功 ■母子を中心に3～4頭の寄り付きを確認 (3頭のグループと単独行動の亜成獣を確認) ■毎日、エサを完食 ■日中にも出没しており、警戒心は低い様子 	高
イノシシ	7月6日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■当初、イノシシの出没痕跡が多かったが、餌付け開始後は、ほとんど来訪しなくなった ■7月22日以降、幼獣(頭数不明)を連れた成獣2頭が寄り付くようになった ■その後は、比較的安定して出没、採餌するようになった 	中

【わな設置後の誘引状況と捕獲状況について】

2020.8.13～9.28（合計47日間の撮影データ分析結果による）

対象獣種	わな設置日	誘引エサ	誘引・捕獲状況	捕獲の継続可能性
イノシシ	8月13日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■8月13日にわなを設置した直後から、1頭の成獣個体がわな内に進入して採餌するようになった ■3日間、継続してわな内にイノシシが進入、採餌行動をとったため、捕獲することを決定 ■<u>8月16日、捕獲を実行（成獣1頭）</u> ■8月18日、捕獲個体の受け入れ態勢が整わず、わな内で熱中症のため死亡 ■8月19日、両扉にして誘引を再開 ■8月21日には、再びイノシシ1頭がわな前に接近し、採餌行動をとった ■8月24日、片扉に設定変更 ■8月26日、亜成獣2頭がわな前で採餌 ■8月31日、9月1日に1頭がわな内で採餌 ■9月1日、朝方に野犬が通過すると、その日から再びイノシシがわなに入らなくなった 	中

			<ul style="list-style-type: none"> ■9月7日、わなセンサーの故障が判明 ■9月12日、重石方式にトリガーを変更 ■9月13日、誤作動により扉閉鎖 ■その後、散発的に1~2頭が来訪するようになるが、わな内には入らない 	
ニホンジカ	8月13日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■8月13日にわなを設置した直後から、2頭のシカがわな入り口で採餌するようになった ■8月15日には、亜成獣1頭がわな内に進入して採餌するようになった →8月16日に、イノシシ1頭を捕獲するも、捕獲個体の受け入れ態勢が整わず、8月18日にわな内で熱中症のため死亡 ■8月19日、両扉にして誘引を再開 ■8月20日には、シカ1頭が、わな入り口で採餌行動をとった ■8月24日、片扉に設定変更 ■少しシカの足が遠のいたが、9月1日に再び1頭がわな前で採餌行動を開始 ■9月6日、7日にシカ2頭がわな内で採餌するようになった ■9月7日、わなセンサーの故障が判明 ■9月12日、重石方式にトリガーを変更 ■9月13日、誤作動により扉閉鎖 ■その後、散発的に1~2頭が来訪するようになるが、わな内には入らない 	中

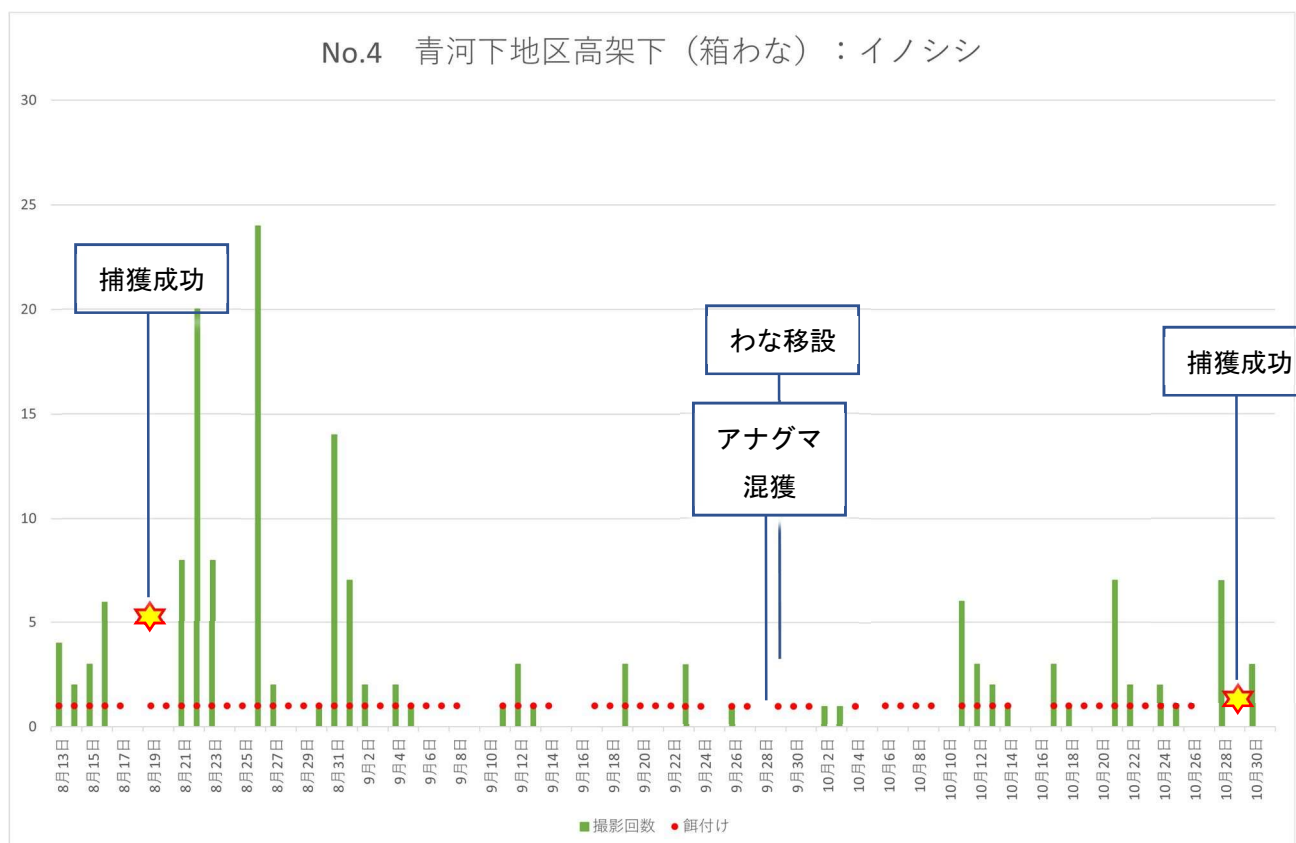
【9月29日までの結果の考察と今後のアドバイス】

- 今回の実証地で最もシカやイノシシの寄り付きが良く、わな設置から3日後には、大きなイノシシの捕獲に成功した。
- 幸先が良く感じられたが、捕獲個体の受け入れ態勢が整わなかったため、殺処分が遅れ、わな内で死亡させてしまった。
- その後も根気よく誘引を続けた結果、シカ、イノシシ共に再誘引に成功するも、今度はわなセンサーの故障、野犬の接近などのトラブルが続き、捕獲には至らなかった。
- センサーに代わる代替トリガーとして、重石方式によるトリガーを設置したが、誤作動による扉の閉鎖などもあり、現在のところ、次の捕獲には至っていない。
- 捕獲直前の環境変化は、イノシシ等の捕獲には特に不利に働くことがわかっているので、できるだけ早期にセンサーの修理を済ませ、再度わな入り口付近からの誘引を試みることをおススメする。
- 場合によっては、近い場所でもわなを移設し、場所に根差した警戒心をリセットするのも有効かもしれない。

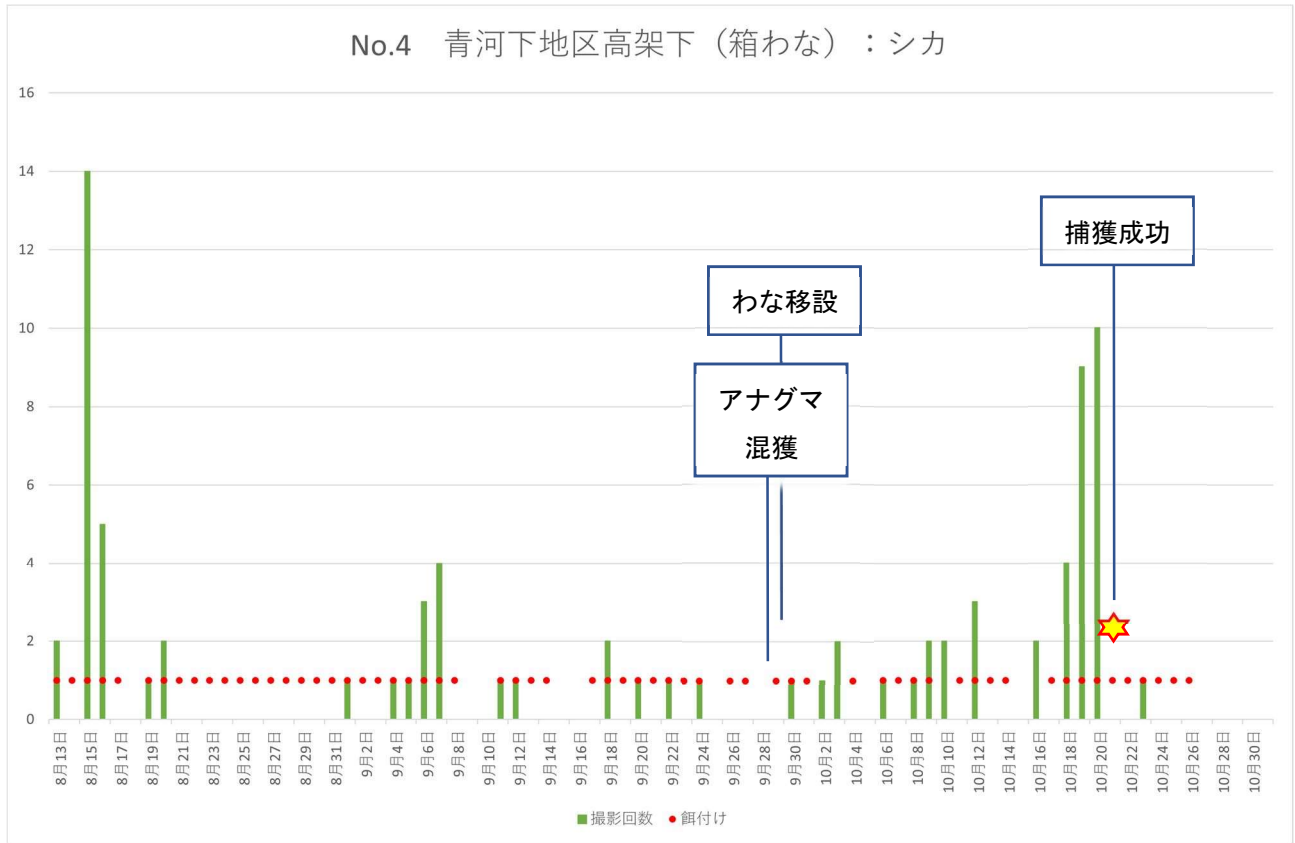
【捕獲終了（10月31日）までの結果と総評】

- 現地指導の前日に、重石トリガーをアナグマが動かし、わなが作動、アナグマ 1 頭が混獲された。
- 扉の誤作動や野犬の接近などの影響もあり、本命のシカ、イノシシの寄り付きが低下していたこともあり、わなの移設を提案した。わな管理者の同意を得たため、指導日当日にわなを少し離れた高架下に移設した。
- わな移設後、3～4日 でわなの入り口にシカとイノシシが接近するようになり、わな内のエサに興味を持つようになったため、捕獲待機状態にしたところ、10月21日にシカ成獣1頭の捕獲に成功。10月29日にはイノシシ成獣1頭の捕獲にも成功した。
- 捕獲成功後の餌付け作業に一時的な欠損はあるものの、全体としては効率的に誘引、捕獲に成功しており、イノシシ2頭とシカ1頭と十分な捕獲実績を上げることができた点は高く評価できる。特に、継続的に餌付けを開始すると、比較的早い段階でイノシシやシカがわなに寄り付いていたことから、トラブルがなければ、より大きな成果を上げることができたものと推察される。
- 捕獲地点は、人家や道路から離れた場所であり、わなの設置場所選定も容易であることから、継続的にわな捕獲を進める上では適した環境であると言える。

【イノシシの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【シカの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【わなの設置状況と捕獲個体】



わな設置状況①



わな設置状況②



イノシシ捕獲の様子 (8月18日)



イノシシ捕獲の様子 (10月29日)



シカ捕獲の様子 (10月21日)

わなID	No. 5
地区名	君田町石原地区（箱わな）

【わな設置前の誘引状況と捕獲見込みについて】

対象獣種	餌付け開始日	誘引エサ	誘引状況	捕獲可能性
イノシシ	7月20日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■餌付け開始直後に誘引成功 ■母子を中心に最多6頭の寄り付きを確認（成獣2頭、幼獣4頭を確認） ■毎日、エサを完食 	高

【わな設置後の誘引状況と捕獲状況について】

2020.8.13～9.28（合計47日間の撮影データ分析結果による）

対象獣種	わな設置日	誘引エサ	誘引・捕獲状況	捕獲の継続可能性
イノシシ	8月13日	米ぬか	<ul style="list-style-type: none"> ■8月14日、わなを設置翌日から、成獣2頭、幼獣4頭がわな前で採餌するようになった ■8月26日まで、比較的安定してわな前にグループが訪れていたが、その後、来訪頻度がまばらになり、滞在時間も短くなった ■この頃より、餌付け頻度もまばらになり、イノシシがわな前に来ても新鮮なエサが無い日が続くようになった ■わな内でイノシシが採餌したことは、これまで1度もない 	中

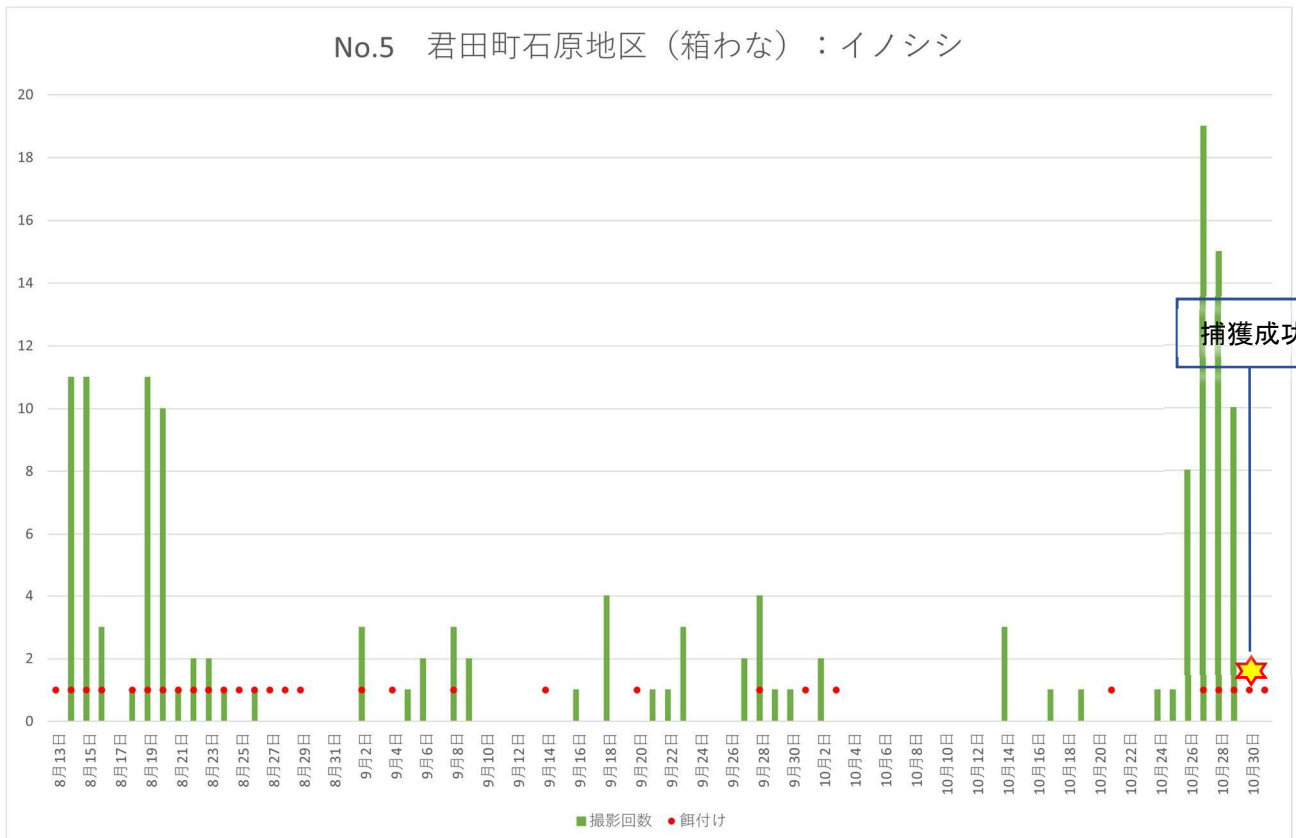
【9月29日までの結果の考察と今後のアドバイス】

- わな設置直後は、頻繁に餌付けが行われており、わな前でイノシシの群れが日々エサを完食する様子が見られたが、エサの位置をわな内に限定するようになった頃から寄り付きが悪くなっていった。
- これに伴い、エサの管理状況も悪化したことも手伝って、ここ1～2週間はわな周辺でイノシシが撮影されても単にわな傍を通過するだけで、わな内のエサに関心を示さなくなっている。
- 今後の対応としては、再びエサの供給頻度を上げ、扉付近から再度の誘引を行うことをおススメする。
- イノシシ自体は、週の半分くらいは撮影されていることから、再びわな付近のエサに関心を示すようであれば、捕獲を成功させる可能性は十分にあると考える。
- エサやりの労力が、個人に偏っているようであれば、管理体制についても再考することが望ましい。

【捕獲終了（10月31日）までの結果と総評】

- 現地指導後もあまり餌付けの頻度は上がらなかったが、10月中旬からイノシシの寄り付き頻度が高まってくると餌付け作業の頻度も上がり、結果的に事業期間終了間際の10月30日に大きなイノシシ成獣1頭の捕獲に成功した。
- 当地区では、本事業で箱わなを導入するより前に、集落が所有する箱わな1基を事前餌付け場所に設置しており、8月3日に大きなイノシシ成獣1頭の捕獲にも成功している。これらのデータから、当地区のわな管理者は、イノシシがわなに誘引された状態からのわな内への誘導については十分な知識と技術を有していると考えられるため、今後はイノシシをより効果的に誘引できる時期や場所についての情報を集積し、捕獲努力を短期に集約できるような工夫をすることが望ましい。
- なお、イノシシの寄り付きが途中から寄り付きが極端に低下した原因としては、餌付け頻度のほかにも水稻の発育状態が影響していると推察された。当地では水稻が乳熟期に入る8月末頃より、イノシシによる食害や掘り起こし害が深刻化するため、わな内のエサに対する興味が薄れ、捕獲効率が低下したものと考えられた。
- 同様の傾向は、他の地域で実施中のわな（特に糸井乙地区 No.2 の箱わな）でも観察されたことから、次年度以降は、捕獲効率が低下する8月末までに捕獲を実行できるよう、早い時期に誘引を開始することが推奨される。
- なお、今回選定したわな設置場所については、イノシシの親子が繰り返し出没していたこと、地形的に石原地区に出没するイノシシが必ず通らなければならないルート上であることから、わなによる捕獲に適した地点であると考えられる。特に群れのサイズが大きい場合には、十分な面積の空き地があることから、囲いわなの導入なども有効であると考えられた。

【イノシシの誘引状況】（1日当たりの撮影回数）



【わなの設置状況と捕獲個体】



わな設置状況



イノシシ捕獲の様子 (10月30日)